

1. 科目名 (単位数)	教育相談 (カウンセリングを含む) (初等・小) (2 単位)	3. 科目番号	EDTE3106
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	教育相談とは、幼稚園・小学校や中学校・高等学校など教育現場において、幼児・児童・生徒のこころの問題を扱うだけでなく、幼児・児童・生徒を取り巻く家族や友人状況、地域・家庭の教育力の低下等、家庭や社会環境の変化なども考慮しながら進められていく、教育現場における心理的な支援活動である。本授業では、教師あるいはスクールカウンセラーが行う教育相談活動について、幼児・児童・生徒を理解するために必要な知識や方法およびカウンセリングを含めた実際の介入方法などについて、知識を深めロールプレイや討論も交えながら実践力を身につけることを目的とする。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の意義と目的、内容と領域について理解し、説明することができるようになる。</li> <li>2. 教育現場における教育相談の基本的視点、展開の方法について理解し、説明や討論 (事例検討も含める) をすることができるようになる。</li> <li>3. 教育相談を効果的に展開するため、枠組みとなる代表的なカウンセリングの理論と技術について理解し、説明やロールプレイをすることができるようになる。</li> <li>4. 教育相談の治療的、予防的、開発的側面や現代の諸課題について理解し、説明や討論をすることができるようになる。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<b>【期末レポート課題】</b> 「望ましい教育相談のあり方について、これまで学習してきた側面を一つ以上取り上げ考察せよ」 ※1, 000字から1, 200字程度で述べなさい。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 石川正一郎・藤井泰『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房 ※必要に応じて授業内でプリントを配布する。 <b>【参考書】</b> 藤原和政・谷口弘一編『学校現場で役立つ教育相談』北大路書房 文部科学省『生徒指導提要』教育図書。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育相談の意義と理論を理解し、説明できるか。</li> <li>2. カウンセリングに関する基礎的・基本的事項を理解し、説明やロールプレイをすることができるか。</li> <li>3. 教育相談の具体的な進め方やポイントを理解し、組織的な取り組みや他機関との連携の必要性、現代の課題を把握して説明や討論 (事例検討も含める) をすることができるか。</li> </ol> ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の学習状況、レポート等を総合して評価する。 1. 積極的参加 (発言、討議、態度、シートの取り組み等) 総合点の50% 2. レポート (小論文、中間レポートを含む) 総合点の50% 上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。		
12. 受講生へのメッセージ	本講義は教職のための資格科目であり、将来の教育者としての思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な理論、技能の獲得を目指している。この目的達成のため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 常に高い緊張感と集中力を保って受講し、自己鍛錬を怠らない。</li> <li>2. 質問、発表を積極的に言い、主体性の形成に励む。</li> <li>3. 欠席、遅刻、早退をしないことで自己管理能力をつける。</li> <li>4. 勝手な退室や、講義に関係のない振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などをせず、常にセルフモニタリングにつとめる。</li> </ol> なお、明らかに態度が悪いと判断された場合厳格な指導が行われる。その後も改善されない場合は全出席であってもF評価になることがある。 また教員は次のことを実行する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の目的を明確にし、シラバスに沿って講義する。</li> <li>2. 声の大きさや話し方など、受講者の聞きやすさ、わかりやすさについて配慮する。</li> <li>3. 討議や演習など受講者が積極的に講義に参加できる環境を作る。</li> <li>4. 受講者の質問には誠実に対応する。</li> <li>5. 受講者が上記のメッセージ1~4が守らない場合、厳格に対処する。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、シラバスの確認 教育現場における教育相談の実際を話し合う。	事前学習	シラバスを読んでおく。また、教科書 pp. 2~5 を読んで教育相談の意義について予習する。
	教育相談の意義、形態、方法、学校における組織について把握する。	事後学習	授業内容について理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第2回	教育相談と生徒指導① いじめ問題の実情を知る。 いじめのメカニズムを知る。 いじめと教育相談を結び付ける事例をグ	事前学習	教科書の pp. 149~162 を熟読し、いじめについて説明できるようにしておく。
		事後学習	授業内容を復習し、いじめの実態について理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。

	ループディスカッションで検討する。 いじめ問題のVTRを視聴し、感想を述べ合う。		
第3回	教育相談と生徒指導② 不登校問題の実情を知る。 不登校の原因、態様を知る。 不登校と教育相談を結び付ける事例をグループディスカッションで検討する。	事前学習	教科書の pp.112～124 を熟読し、不登校と教育相談について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、不登校の新しい動きを振り返りシートにまとめファイリングする。
第4回	教育相談と生徒指導③ 特別支援教育について知る。 発達障害の実情を知る。 発達障害の種類と特徴を知る。 発達障害と教育相談を結び付ける事例をグループディスカッションで検討する。	事前学習	教科書の pp.69～78 を熟読し、様々な発達障害の特徴について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、発達障害の支援など理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第5回	教育相談と生徒指導④ 非行・児童虐待の実情を知る。 非行の原因、児童虐待の種類を知る。 非行・児童虐待と教育相談を結び付ける事例をグループディスカッションで検討する。	事前学習	教科書の pp.126～138 を熟読し、非行の動向、虐待の指導・支援について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、問題行動・児童虐待のとらえ方と支援などを理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第6回	カウンセリングの理論 カウンセリングの種類を知る。 来談者中心療法について理解する。 カウンセリングマインドについて理解する。 精神分析、交流分析、行動療法、ブリーフセラピー、箱庭療法等について理解する。	事前学習	教科書の pp.13～21, pp.32～43 を熟読し、来談者中心療法と様々な心理療法の意味について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、カウンセリングマインドや心理療法について理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第7回	カウンセリング技法① 傾聴について理解する。 受容、支持、繰り返し、明確化、質問について知る。 DVDを視聴し、技法の実際の場면을学び、のち二人一組で演習する。	事前学習	傾聴技法について関連する書物を読んで、その意義について予習をする。
		事後学習	カウンセリング技法について理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第8回	カウンセリング技法② DVDを視聴し、技法の実際の場면을学び、のち二人一組で演習する。 演習後に気づいたこと、感想を共有する。	事前学習	カウンセリング技法について日頃取り組んでいることを考える。
		事後学習	実際に演習したことの反省を振り返りシートにまとめファイリングする。
第9回	開発的カウンセリング 開発的カウンセリングについて知る。 構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、ピアサポート、アサーショントレーニングについて理解する。 構成的グループエンカウンターをグループごとに行う。	事前学習	教科書の pp.23～31 を熟読し、開発的カウンセリングとは何かについて予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、構成的グループエンカウンターやピアサポートなどを理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第10回	発達と教育相談 発達理論を知る。 発達段階説として、ピアジェ、コールバーグ、フロイト、エリクソンの理論を理解する。	事前学習	教科書の pp.57～67 を熟読し、発達段階説について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、発達や発達段階説を理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第11回	アセスメントと心理検査 アセスメントについて知る。 アセスメントの対象、方法について理解する。 心理検査として、発達検査、知能検査、性格検査、適性検査の種類を理解する。 心理検査の効果と課題について知る。	事前学習	教科書の pp.90～100 を熟読し、アセスメントと心理検査の必要性について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、アセスメントと心理検査を理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第12回	様々な機関との連携 連携のスタイルについて知る。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携について理解する。 多くの機関と連携している実態を知る。 連携の事例をグループで検討する。	事前学習	教科書の pp.186～196 を熟読し、連携とスクールカウンセラーの重要性について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、連携の必要性について理解したことを振り返りシートにまとめファイリングする。
第13回	保護者への支援 最近の保護者の現状について知る。 保護者との関わり方について理解する。	事前学習	教科書の pp.163～174 を熟読し、保護者支援の留意点について予習をする。
		事後学習	授業内容を復習し、保護者支援について理解したことを

	保護者支援のあり方、対応について事例を通して考える。		振り返りシートにまとめファイリングする。
第14回	事例によるカウンセリング演習 保幼～小学校低学年までの事例の検討	事前学習	これまで学習してきたことをまとめておく。
		事後学習	事例検討した内容を他者、他グループの意見を振り返りシートにまとめファイリングする。
第15回	事例によるカウンセリング演習 小学校中学年～高学年までの事例の検討	事前学習	これまで学習したことをまとめる
		事後学習	事例検討した内容を他者、他グループの意見を振り返りシートにまとめファイリングする。